



# アバン仙台 Jr. Youth News

第24回  
2016年 9月号



## 2016 夏の思い出 安比合宿



青空の下、サッカー！



合間の休息... 戦うために食事...

### ～U14・15、U13、プレー面での取り組み～

2・3年生はA・Bの2チームで参加しましたが、怪我人等により最終的には19人で2チームを回すこととなりました。試合でのBチームの目的はまず試合に勝つことに力を入れ攻撃的な姿勢を振ることが出来たと思えますが失点を多く重ねてしまう試合も2試合ほどありました。Aチームは結果よりも内容を重視することが目的でしたが、点を取ると気を抜いてしまう癖が出る事が多く、A・Bどちらも目標を達成できたとい

2日間の中で目立ったのは、A・Bともに守備時に連動してしていないことです。ファーストDFがボールへ行くのと同時に



周りはポジションを調整しなければなりません。その高原の気持ちいい風が吹いていても炎天下... イミングが早すぎたり、遅すぎたり、または動いてなかったりという場面が目立ちました。一人ひとりのポジショニングはだいぶ良くなってきたと思えますがタイミングが合っていないわけです。守備は攻撃と違い、タイミングが合わなければポジショニングの力は発揮されません。意識として守備はチーム全体でやるものと肝に銘じてやる必要があります。そこを厳しく取り組んで行こうと思います。

1年生は、まずは時間をかけて2日間で「基礎」・「走り」・「動きながらサッカー」の3つにチャレンジすることを話しました。具体的には、リーグ戦を通して選手も感じている基礎技術の向上、そして戦術的にサッカーをしていくために、細かなポジションの修正と、それらを可能にするために「走る」という根本的な部分を頑張ることにしました。

その中で予備動作（ジョギングとステップ）を入れて準備をし、状況をよく観察して試合を展開する。その中でチームは攻撃することを目標としているので、奪ったボールを相手に当てないように攻撃へ移り、そしてチャンスの時にはボランチもゴール前まで関わっていくこと。

取り組みの成果が見られたのは、動いてゴールを奪い勝った試合もあって選手も手ごたえを感じました。また、空き時間では2人1組による動きながらの基礎練習や体幹トレーニングを並行しながら過ごしました。合宿で取り組んだことは、今回だけで終わらずに、日々の練習でも取り組んでほしいと思います。



戦いを終えて力もぬけた...

### Off the pitch

夏休みの醍醐味、強化合宿。今回は1泊2日、岩手県安比高原で合宿！宿泊先は民宿。女将さんや働く従業員みなさんの柔らかい口調と雰囲気でも過ごしやすかったです。コーチの地元・岩手県釜石市地区で加工された魚料理も格別でした。

合宿の2日間は晴天に恵まれました。高原の気持ちのいい風はありましたが、炎天下で体調を崩す選手もいました。それでも戦い抜き、1年生の中には戦い終えて力が抜け座り込む選手もいました。

### 1～3年 初合同合宿

今回の合宿は共に汗を流し、食事・洗濯など生活を共にしたことで、1年生は2・3年生から学び、2・3年生も合宿中に1年生とコミュニケーションを図るよい時間となったようです。

また、こんなエピソードもありました。夕飯の時間でのこと、数人の選手が時間をかけて食べていた際に、その場にいた選手全員で感動したのが、3年生キャプテンの渡邊大夢くんの食事後の茶碗です。なんと米一粒もない綺麗な状態！1年生たちが驚き感動していました。一方では、前回の合宿よりも食べる量が増えている選手も見られ日頃の取り組みも感じました。スポーツ選手として食事を大事にすることはとても大事な要素です。

それと合宿中にはボールがなくなるという事件も。初日活動後に全員で捜索しても見つからなかった1個のボール。2日目終了後には2個になっていました。宮城に戻る前に全員で探すこと30分。草をかき分けた先にまずは2日目になくしたボール、続いて「ひょっとしたら」と同じような方法で探している初日になくしたボールが... 見つかりました！見つかったことを喜びながら反省すべきこと。

## ～安比遠征を終えて～

### 甲田 亞佑人くん(中3)

今回の安比遠征、まずAチームが目指したことは、勝つことも大事ですが、今回は勝ちにこだわりつつ内容での成果を出す、ということでした。少しでも新しい戦術を取り入れ、チームにバリエーションをもたらすためです(3バック)。これは試合を取りたいときに使えるようにしたい、という理由からです。初戦でやってみて勝つことはできましたがスムーズにやることはできなかったと思います。



その他にも今までの課題にも取り組みました。その中でも、攻撃面でみんな手応えのようなものを感じたようでした。守備に関してはあまり公式戦ではなかったミスがあったりしました。油断をしてしまってプレッシャーが運れる場面などがあり、練習のなかでより自分たちに厳しくやっていかなければいけないと思いました。

## U13リーグ 後期スタート

8月21日(日)から、U13リーグ後期が始まりました。後期は11人制、合宿でも11人制を経験しているので、その内容をそのまま試合にぶつけることができればよい試合になると思っていました。ですが、当日の気温は37度、試合の運営でも飲水タイムをとりながらでしたが、体調を崩す選手が続出。また、試合の内容もチームのサッカーが出来ないまま後期初戦を終えました。試合後、選手と話しましたが、皆さん、やるしかありません! 頑張りましょう。

## 鳥山コーチをサッカーに夢中にしてくれた選手の教え

今回、鳥山コーチが皆に伝えたい言葉。コーチと同年swi(スイカ)にまだ現役で活躍している「遠藤保仁 選手」です。

### 遠藤保仁 選手

2002年から日本代表として活躍。国際試合152試合15得点。ガンバ大阪に所属し、最年長の選手ながらチーム練習後も自分の代名詞である「パス」の練習と持久力のトレーニングに励んでいるそうです。「パスの精度一つで、世界と勝負したい」と自分の技術に自信を持ち、挑戦を続ける遠藤選手の言葉です。



## MJリーグ(第11～13節)

### 試合結果

VS フレスカ 0-2  
VS コバルトレ 2-3  
VS 仙台FC 0-2



残念ながら3連敗で残留がほぼできない状態となりました。前期はスコアも内容も散々に終わったフレスカとコバルトレには互角かそれ以上の戦いが出来たと思いますが、残り5分で失点するという後期に入ってからの悪い流れで敗れてしまいました。

その中で3年生の主力が3名相次いで接触による不運な怪我で離脱してしまい、チームとしてベストな状態で臨むことができない試合となってしまいました。

また、チームのリーグ降格は決定となり、現状として怪我人も相次いでいるなか、残りの3試合はこれまでリーグ戦に参加していなかったメンバーも含めて全員で戦おうと思います。

### この選手に注目! 齋脩志くん(中2)

僕は、幼稚園のときにアバンに入りました。そこでサッカーの楽しさを学びました。

小学3年生から違うチームに入りましたが中学生になりアバンジュニアユースに入団しました。

でも、中一のときは、あまり試合に出る機会がなく、自分の足りないところを見つけ練習しました。

新人戦前に少しずつ成果が出て新人戦メンバーに選ば

れ全試合に出場することが出来ました。僕は、これまでのサッカー人生の中で自主練習の大切さを学ぶことが出来ました。これからも自分の欠点を探して長所を伸ばしつつ欠



## ジュニアユースの取り組み!

ジュニアユースの重要な取り組みの一つに「サッカーノート」。サッカーノートは各

冊準備。コーチと毎週ノートを交換しながら

「自分の為に自分を振り返る」ことが目的

す。サッカーノートを見るだけでも、いかに

学生3年間が重要な時期かが分かります。

初はただ「提出すること」「コーチにコメントをもらうこと」だけの内容だったものが、

次に第1に自分を深く見つめ直すものに。自分に訴えかけるように書くことも求め初めています。大切にすべきことなのか? 感には驚くべきものがあります。

「書くという作業をすることで、自分の気持ちや考え方を整理できる。それを繰り返すうちに、自分のことを客観的に見つめることができるようになった。」 ~ 中村俊輔 選手 ~